

平成26年度（2014年度） 文学部専門教育科目授業日程計画

前 期							後 期										
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考
4 月			1	2	3	4	5	1日～7日 春季休業 1日 新入生オリエンテーション 2日 全学統一TOEIC-IP 3日 履修相談会 8日 入学式、新入生オリエンテーション 9日 授業開始  29日 昭和の日	10 月				1	2	3	4	13日 体育の日 <b>注：16日 月曜日の授業を行う。</b>  22日 開学記念日
	6	7	8	9	10	11	12			5	6	7	8	9	10	11	
	13	14	15	16	17	18	19			12	13	14	15	16	17	18	
	20	21	22	23	24	25	26			19	20	21	22	23	24	25	
	27	28	29	30						26	27	28	29	30	31		
5 月					1	2	3	3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日 6日 振替休日 <b>注：8日 月曜日の授業を行う。</b> <b>注：9日 火曜日の授業を行う。</b>	11 月							1	1日～3 大学祭 3日 文化の日 <b>注：6日 月曜日の授業を行う。</b>  23日 勤労感謝の日 24日 振替休日
	4	5	6	7	8	9	10			2	3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	16	17			9	10	11	12	13	14	15	
	18	19	20	21	22	23	24			16	17	18	19	20	21	22	
	25	26	27	28	29	30	31			23	24	25	26	27	28	29	
6 月	1	2	3	4	5	6	7	21日 海の日 30日 補講日	12 月		1	2	3	4	5	6	23日 天皇誕生日 25日～1月7日 冬季休業 <b>注：25日 冬季休業であるが授業を行う。</b>
	8	9	10	11	12	13	14			7	8	9	10	11	12	13	
	15	16	17	18	19	20	21			14	15	16	17	18	19	20	
	22	23	24	25	26	27	28			21	22	23	24	25	26	27	
	29	30								28	29	30	31				
7 月			1	2	3	4	5	21日 海の日 30日 補講日	1 月					1	2	3	1日 元日  <b>注：5日 冬季休業であるが授業を行う。</b> <b>注：6日 冬季休業であるが授業を行う。</b> 12日 成人の日 16日 センター試験実施に伴う 臨時休講 17日・18日 大学入試センター試験
	6	7	8	9	10	11	12			4	5	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	18	19			11	12	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	25	26			18	19	20	21	22	23	24	
	27	28	29	[30]	31					25	26	27	28	29	30	31	
8 月						1	2	1日～9月30日 夏季休業 <b>注：1,4,5日 夏季休業であるが授業を行う。</b> 6日, 7日 補講日 8日～9日 オープンキャンパス 13日～15日 夏季一斉休業  19日～22日 集中講義A 26日～29日 集中講義B	2 月	1	2	3	[4]	5	6	7	4日, 10日, 12日 補講日 11日 建国記念の日  13日～3月31日 臨時休講  25日・26日 一般入試(前期日程)
	3	4	5	[6]	[7]	8	9			8	9	[10]	[11]	[12]	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16			15	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30										
	31																
9 月		1	2	3	4	5	6	2日～5日 集中講義C  9日～12日 集中講義D 15日 敬老の日 16日～19日 集中講義E 23日 秋分の日 24日～26日 集中講義F	3 月	1	2	3	4	5	6	7	12日 一般入試(後期日程)  21日 春分の日  25日 卒業式
	7	8	9	10	11	12	13			8	9	10	11	12	13	14	
	14	15	16	17	18	19	20			15	16	17	18	19	20	21	
	21	22	23	24	25	26	27			22	23	24	25	26	27	28	
	28	29	30							29	30	31					
前期計	16	16	16	16	16	授業週数 (含試験)			後期計	16	16	16	16	16	授業週数 (含試験)		

↑ 5月9日を含む  
↑ 5月8日を含む

↑ 10月16日及び11月6日を含む

- 注) 1.  は休業日及び臨時休講を示す。  
 2.    は通常の補講日を示す。  
 3.    は気象警報により休講とした場合の補講日を示す。  
 4. 上記日程計画以外の休講、補講等については別途揭示します。  
 5. 夏季休業・冬季休業期間中においても授業・試験を行うことがあります。  
 6. 前期卒業予定者は集中講義を履修できません。集中講義の詳細は、別途揭示します。

## 6. 岡山大学文学部履修細則

次頁からの卒業資格単位数及び副専攻コース修了資格単位数等は、入学した年度の学生便覧に掲載されているものが適用されるので、注意してください。(ただし、編入学・転学部等の場合を除く。)  
なお、平成25年度以降入学生について、『英語副専攻コース』は休止します。

**第1条** この細則は、岡山大学文学部規程第8条第4項の規定に基づき、岡山大学文学部（以下「本学部」という。）における授業科目の単位の履修方法について必要な事項を定めるものとする。

**第2条** 本学部の学科に、それぞれ次のとおり各専修コース及び副専攻コースを設ける。

- 2 学生は、入学後指定の期日までに、所属を希望する専修コースを学部長に届け出て許可を受けなければならない。
- 3 前項の希望者が専修コースごとの収容限度数を超える場合は、選考の上、所属を決定する。
- 4 所属した専修コースの変更を志望するものがあるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

学科	専修コース	副専攻コース
人文学科	哲学芸術学専修コース 行動科学専修コース 歴史文化学専修コース 言語科学専修コース 言語文化学専修コース	英語副専攻コース ドイツ語副専攻コース フランス語副専攻コース 中国語副専攻コース

**第3条** 各専修コースの卒業資格単位数及び各副専攻コースの修了資格単位数は、別表に掲げるとおりとする。

附 則

- 1 この細則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 平成6年度以前の入学生については、なお従前の例による。

(附 則 以下中略)

附 則

- 1 この細則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前の入学生については、なお従前の例による。

人文学科 哲学芸術学専修コース  
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位		配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位		1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上 のグルー プにわた り, 6単位	3 2 単位	3 4 単位	1～2年次
		人間と社会				
		健やかに生きる				
		自然と技術				
	個別科目					
外国語科目	総合英語 1 総合英語 2 総合英語 3 総合英語 4	1単位 1単位 1単位 1単位	1 2単位			
専門教育科目	必修科目	人文学への招待 (哲学芸術学) 人文学への招待 (行動科学) 人文学への招待 (歴史文化学) 人文学への招待 (言語科学) 人文学への招待 (言語文化学)	2単位		1年次前期	
		人文学入門演習 (哲学芸術学) 人文学入門演習 (行動科学) 人文学入門演習 (歴史文化学) 人文学入門演習 (言語科学) 人文学入門演習 (言語文化学)	2単位		1年次後期	
	専 門 科 目	哲学概説 1 哲学概説 2 倫理学概説 1 倫理学概説 2 芸術学概説 1 芸術学概説 2 芸術表象論概説 1 芸術表象論概説 2 美術史概説 1 美術史概説 2 思想史概説 1 思想史概説 2	8単位		1～3年次	
		哲学講義 倫理学講義 美学講義 芸術学講義 芸術表象論講義 日本美術史講義 西洋美術史講義 思想史講義	8単位		2～4年次	
		哲学演習 倫理学演習 美学演習 芸術学演習 芸術表象論演習 日本美術史演習 西洋美術史演習 思想史演習	8単位		2～4年次	
		哲学芸術学課題演習	6単位		3年次後期 ～4年次	
		自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4 6単位		1～4年次
		専門科目	卒業論文	1 0単位		4年次
合計単位			1 2 4単位			

人文学科 行動科学専修コース  
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位		配当年次
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位		1年次前期
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上のグループにわたり、6単位	3 2 単位 3 4 単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	総合英語 1 総合英語 2 総合英語 3 総合英語 4	1単位 1単位 1単位 1単位	1 2 単位		
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待 (哲学芸術学) 人文学への招待 (行動科学) 人文学への招待 (歴史文化学) 人文学への招待 (言語科学) 人文学への招待 (言語文化学)	2単位		1年次前期
		人文学入門演習 (哲学芸術学) 人文学入門演習 (行動科学) 人文学入門演習 (歴史文化学) 人文学入門演習 (言語科学) 人文学入門演習 (言語文化学)	2単位		1年次後期
		心理学概説 1 心理学概説 2 人文地理学概説 自然地理学概説 社会学概説 1 社会学概説 2 文化人類学概説 1 文化人類学概説 2 社会文化学概説	8単位		1～3年次
		心理学講義 地理学講義 地誌学講義 社会学講義 文化人類学講義 社会文化学講義	8単位		2～4年次
		心理学演習 地理学演習 社会学演習 文化人類学演習 社会文化学演習 行動科学実験・調査演習	8単位		2～4年次
		行動科学課題演習	6単位		3年次後期 ～4年次
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4 6 単位		1～4年次
専門科目	卒業論文		1 0 単位	4年次	
合計単位			1 2 4 単位		

人文学科 歴史文化学専修コース  
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位		配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位		1年次前期	
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上のグループにわたり、6単位	32単位	34単位	1～2年次
		人間と社会				
		健やかに生きる				
		自然と技術				
	個別科目					
外国語科目	総合英語 1 総合英語 2 総合英語 3 総合英語 4	1単位 1単位 1単位 1単位	12単位			
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待 (哲学芸術学) 人文学への招待 (行動科学) 人文学への招待 (歴史文化学) 人文学への招待 (言語科学) 人文学への招待 (言語文化学)	2単位		1年次前期	
		人文学入門演習 (哲学芸術学) 人文学入門演習 (行動科学) 人文学入門演習 (歴史文化学) 人文学入門演習 (言語科学) 人文学入門演習 (言語文化学)	2単位		1年次後期	
		日本史概説 1 日本史概説 2 アジア史概説 1 アジア史概説 2 西洋史概説 1 西洋史概説 2 考古学概説 1 考古学概説 2	8単位		1～3年次	
		日本史講義 アジア史講義 西洋史講義 考古学講義 比較宗教史講義 文化交流史講義	8単位		2～4年次	
		日本史演習 アジア史演習 西洋史演習 考古学演習	8単位		2～4年次	
		歴史文化学課題演習	6単位		3年次後期～4年次	
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	46単位		1～4年次	
専門科目	卒業論文	10単位		4年次		
合計単位			124単位			

人文学科 言語科学専修コース  
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位		配当年次
教養教育科目	ガイダンス科目	人文学の基礎	2単位		1年次前期
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上のグループにわたり、6単位	3 2 単位 3 4 単位	1～2年次
		人間と社会			
		健やかに生きる			
		自然と技術			
	個別科目				
外国語科目	総合英語 1 総合英語 2 総合英語 3 総合英語 4	1単位 1単位 1単位 1単位	1 2単位		
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目 人文学への招待 (哲学芸術学) 人文学への招待 (行動科学) 人文学への招待 (歴史文化学) 人文学への招待 (言語科学) 人文学への招待 (言語文化学)	2単位		1年次前期
		人文学入門演習 (哲学芸術学) 人文学入門演習 (行動科学) 人文学入門演習 (歴史文化学) 人文学入門演習 (言語科学) 人文学入門演習 (言語文化学)	2単位		1年次後期
		言語学概説 日本語学概説 1 日本語学概説 2 英語学概説 ドイツ語学概説 フランス語学概説	8単位		1～3年次
		言語学講義 1 言語学講義 2 言語学講義 3 日本語学講義 1 日本語学講義 2 英語学講義 ドイツ語学講義 フランス語学講義	8単位		2～4年次
		言語学演習 1 言語学演習 2 言語学演習 3 日本語学演習 英語学演習 ドイツ語学演習 フランス語学演習	8単位		2～4年次
		言語科学課題演習	6単位		3年次後期 ～4年次
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4 6単位		1～4年次
専門科目	卒業論文		1 0単位	4年次	
合計単位			1 2 4単位		

人文学科 言語文化学専修コース  
授業科目の履修方法

授業科目区分		授業科目名	卒業資格単位		配当年次	
教養教育科目	ガイダンス科目		人文学の基礎		2単位	1年次前期
	主 題 科 目	現代の課題	3つ以上 のグルー プにわた り, 6単位	3 2 単位	3 4 単位	1～2年次
		人間と社会				
		健やかに生きる				
		自然と技術				
	個別科目					
外国語科目		総合英語 1	1単位	1 2 単位		
		総合英語 2	1単位			
		総合英語 3	1単位			
		総合英語 4	1単位			
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目	人文学への招待 (哲学芸術学) 人文学への招待 (行動科学) 人文学への招待 (歴史文化学) 人文学への招待 (言語科学) 人文学への招待 (言語文化学)	2単位	1年次前期	
			人文学入門演習 (哲学芸術学) 人文学入門演習 (行動科学) 人文学入門演習 (歴史文化学) 人文学入門演習 (言語科学) 人文学入門演習 (言語文化学)	2単位	1年次後期	
		日本語文化学概説 1 日本語文化学概説 2 中国言語文化学概説 1 中国言語文化学概説 2 英米言語文化学概説 1 英米言語文化学概説 2 ドイツ言語文化学概説 1 ドイツ言語文化学概説 2 フランス言語文化学概説 1 フランス言語文化学概説 2	8単位	1～3年次		
		言語文化学講義 日本語文化学講義 中国言語文化学講義 英米言語文化学講義 ドイツ言語文化学講義 フランス言語文化学講義	8単位	2～4年次		
		言語文化学演習 日本語文化学演習 中国言語文化学演習 英米言語文化学演習 ドイツ言語文化学演習 フランス言語文化学演習	8単位	2～4年次		
		言語文化学課題演習	6単位	3年次後期 ～4年次		
	自由科目	文学部の全ての専門教育科目 他学部の全ての専門教育科目	4 6単位	1～4年次		
専門科目	卒業論文	1 0単位	4年次			
合計単位			1 2 4単位			

## 備考

1. 自由科目とは、各専修コースにおいて、必修科目として指定された科目以外の専門教育科目をいう。これは、他学部開講の専門教育科目を含むものとする。  
また、必修科目として規定された単位数を超えて修得した単位もこの科目の単位とすることができる。
2. 年次とは、入学後の年数をいい、入学後1年目を1年次、2年目を2年次、3年目を3年次、4年目を4年次という。
3. 外国人留学生にあつては、教養教育科目の外国語科目のうち、総合英語1～4（4単位）を他の外国語科目の単位をもって換えることができる。



人文学科 英語副専攻コース (省略)

人文学科 ドイツ語副専攻コース

授業科目の履修方法

ドイツ語副専攻コースは1年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序	
教養教育科目	外国語科目	ドイツ語初級Ⅰ	修得することが望ましい。	履修1年目	
		ドイツ語初級Ⅱ			
		ドイツ語中級	修得することが望ましい。	履修2年目	
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目	ドイツ語コミュニケーション1	8単位	履修1年目
			ドイツ語コミュニケーション2		
			ドイツ語コミュニケーション3		履修2年目
			ドイツ語コミュニケーション4 時事ドイツ語		
		ドイツ語コミュニケーション5	24単位	履修3年目	
		ドイツ語コミュニケーション6			
		ドイツ語翻訳法		履修2年目	
		ドイツ語読解法 ドイツ語表現法1 ドイツ語表現法2			
ドイツ語上級	4単位	履修3年目			
合計単位			24単位		

人文学科 フランス語副専攻コース

授業科目の履修方法

フランス語副専攻コースは1年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序	
教養教育科目	外国語科目	フランス語初級Ⅰ	修得することが望ましい。	履修1年目	
		フランス語初級Ⅱ			
		フランス語中級	修得することが望ましい。	履修2年目	
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目	フランス語コミュニケーション1	2単位	履修1年目
			フランス語コミュニケーション2	2単位	
			フランス語作文1	2単位	履修2年目
		フランス語作文2	2単位		
		フランス語コミュニケーション3	2単位		
		フランス語コミュニケーション4	2単位		
		フランス文化総合演習1	2単位	履修3年目	
		フランス文化総合演習2	2単位		
		フランス語作文3	2単位		
		フランス語コミュニケーション5	2単位		
		フランス語コミュニケーション6	2単位		
		フランス文化総合演習3	2単位		
		合計単位			24単位

人文学科 中国語副専攻コース

授業科目の履修方法

中国語副専攻コースは1年次より開講する。

授業科目区分		授業科目名	修了資格単位	履修順序
教養教育科目	外国語科目	中国語初級Ⅰ 中国語初級Ⅱ	修得することが望ましい。	履修1年目
専門教育科目	専 門 科 目	必修科目		
		中国語コミュニケーション1	2単位	履修1年目
		中国語コミュニケーション2	2単位	～2年目
		中国語総合演習1	2単位	履修2年目
		中国語総合演習2	2単位	
		中国語総合演習3	2単位	
		中国語総合演習4	2単位	
		中国語コミュニケーション3	2単位	履修3年目
		中国語コミュニケーション4	2単位	
		中国語上級1	2単位	
		中国語上級2	2単位	
		中国語コミュニケーション5	2単位	
		中国語コミュニケーション6	2単位	
合計 単 位			24単位	

## 7. 履修に関する事項

- 1 授業科目は、それぞれの配当年次に履修するものとする。
  - \*配当年次は各年度の「文学部専門教育科目授業時間割」又はシラバスで確認してください。
  - \*特に記載のあるものを除き、配当年次以上の年次であれば履修できます。
- 2 学生は、卒業要件科目・単位数等を考慮のうえ履修すること。なお、卒業要件科目・単位数は入学年度の学生便覧（履修細則）によること。
  - \*文学部では半期15単位以上、通年30単位以上を単位修得の標準としています。ただし、高年次になると演習科目や卒業論文作成のための時間が増えるため、無理のない範囲でしっかり履修してください。
  - \*教養教育科目は1年次、2年次において確実に修得することが望めます。
  - \*教養教育科目の「情報処理入門（情報機器の操作を含む）」は1年次に履修すること。必修ではありませんが、全員の履修が望めます。
  - \*文学部専門教育科目のうち、シラバスの「重複履修の可否」に「可」とあるものは同一名の授業科目を重複して履修することができます。また、これにより修得した単位は卒業資格単位として認められます。
  - \*教養教育科目及び他学部の専門教育科目は一部の科目を除き原則として重複履修ができません。履修の手引や文学部教務担当で個別に確認してください。
  - \*所属専修コースの概説科目は、1～3年次において確実に修得することが望めます。
  - \*所属専修コースの課題演習については、『専修コース課題演習 履修に係る取扱いについて』を参照すること。
- 3 他学部開講の科目（教職関係科目を含む。）を履修する場合は、当該科目の開講される学部において、時間割、シラバス等を確認した後、本学部で履修手続きをとらなければならない。
- 4 教養教育科目の履修は、年間32単位を限度とする。
  - \*履修登録をして「F」となった科目、「人文学の基礎」及び「大学コンソーシアム岡山中で履修した科目（教養教育科目に限る。）」の単位は上記32単位に含みます。TOEIC-IP試験等により認定された単位は含みません。
  - \*これは、履修上限についてのものです。卒業資格単位とは異なります。例えば、TOEIC-IP試験で認定された単位は履修の上限に含みませんが、卒業資格単位としては認められます。
  - \*なお、平成20年度以降入学生について、教養教育科目の「基礎英語」、「留学生支援ボランティア実習」、「学生支援ボランティア実習」及び補習教育科目は上記32単位に含みません。
- 5 履修手続は、通常の開講科目と集中講義に分けて手続期間が定められており、それぞれについてWeb登録により手続しなければならない。
  - \*各年度の通常科目及び集中講義の履修登録期間は別途掲示します。前期：4月、前期集中：6月、後期（後期集中を含む）：10月です。
  - \*授業の内容が自分が勉強したいものと違っていた、知識が不足していることに気付いた等の理由から、履修登録期間後、定められた期間に手続をすることにより、履修を取り消すことが出来ます。期間については、毎年度掲示します。前期：6月中の1週間、前期集中：講義開始前日までの期間、後期：11月中の1週間です。文学部教務担当で手続を行ってください。
- 6 留学先の大学で修得した単位の取扱いについて
  - \*留学先の大学で修得した単位は、60単位を限度とし、教育委員会の議を経て、本学での修得単位として認定することがある。
  - \*認定を希望する場合は、留学開始までに文学部教務担当で必要書類や手続を確認し、帰国後、手続を行ってください。
  - \*なお、3年次後期から4年次間の留学の場合には、留学先の大学で修得した単位のうち、各専修コースの課題演習科目2単位を修得単位として認定することがある。認定を希望する場合は、指導教員と相談のうえ、留学前に教務担当へ連絡すること。
- 7 外部検定試験等による単位認定を希望するときは、所定の期間に手続をしなければならない。
  - \*手続期間は7月と2月です。期間は別途掲示します。認定の詳細は、『岡山大学文学部における外国語科目等に係る単位認定基準』を参照すること。

## 8. 「専修コース課題演習」履修に係る取扱いについて

平成16年度以降入学者が履修する「専修コース課題演習」については、卒業論文の執筆に向けての段階的な指導を前提に開講するものであり、原則として3年次後期から4年次後期にわたって、ひとつの専門領域等で継続して履修することとし、履修方法の詳細については各専修コースで定めるものとする。

## 9. 岡山大学文学部成績評価基準

岡山大学文学部規程（平成16年岡大文規程第1号）第10条の規定に基づき、岡山大学文学部成績評価基準を次のように定める。

- 1 成績評価は、出席状況、受講態度、報告・発表状況、レポート、試験など多様な要素を組み合わせて行うものとする。一回の試験又は一回のレポート提出のみで成績評価を行うことはしない。
- 2 試験、レポート等は、成績評価の際に、受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が、適切に反映されるよう課題設定を工夫するものとする。
- 3 各授業科目の成績評価の方法等は、シラバス（講義要覧）に明記するとともに、各授業において、学習目標と関連付けながら説明するものとする。また、優、良、可及び不可（平成20年度以降入学生にあっては、A+、A、B、C及びF）等の区分についても併せて説明する。
- 4 ガイダンス科目及び外国語科目のように、性格を同じくする授業科目を複数コマ開講する場合の成績評価の方法等は、担当教員による評価の差が生じないように、相互に調整し、可能な限り統一するものとする。また、1授業科目を複数の教員で担当する場合も同様とする。
- 5 卒業論文の評価は、次の項目等について、総合的に行うものとする。
  - ① 論文としての形式を満たしているか。
  - ② 必要な調査や実験、または文献の収集を行い、かつ適切な分析が行われているか。
  - ③ 論文のテーマ、目的、方法が明確であるか。また、論旨が明晰であり、言語表現が適切であるか。
  - ④ 口頭試問において質問に適切に答えられたか。なお、論文の形式等については、3年次後期のもしくは4年次前期の課題演習において、担当の教員が指示するものとする。
- 6 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、適切に対応するものとする。

## 10. 岡山大学の試験等における受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。(不明な点については授業担当教員へ確認してください。)

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。  
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板(物入れ)には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて出すと当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条(大学院学則第49条)により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目(通年で開講する授業科目を含む。)の単位は認定しない。

## 11. 就業体験実習(インターンシップ)の履修について

### 就業体験実習の概要

1. 趣旨・目的  
本実習は、在学中に一定期間、学外の一般事業所において就業体験を行うことにより社会的な知見を身につけるとともに、自らに適したキャリアを開発することを目的とする。
2. 対象学生  
原則として3年次生とする。
3. 実施時期等  
実習の実施時期は、原則として夏季休業中の2週間とする。  
実習の実施にあたって、学生は受入機関からの報酬等は受けないものとする。
4. 実習内容等  
実習内容は、原則として、受入機関の予定しているものを文学部学生生活委員会が確認し、承認するものとする。
5. 単位認定等  
文学部学生生活委員会は、学生の提出する「実習結果報告書」、受入機関の「インターンシップ実施評価報告書」及び指導教員の「実習指導意見書」に基づき、単位の認定を行う。
6. 事故対策  
実習中の事故に対処するため、学生は学生教育災害傷害保険及び賠償責任保険等に加入するものとする。
7. 守秘義務  
実習中に学生が知り得た受入機関に関する情報については、守秘義務を負うものとする。
8. 運営機関  
本実習の運営は、文学部学生生活委員会が行う。

授業科目区分	専門科目
授業科目	就業体験実習(インターンシップ)
単位	2単位
実施時期	原則として夏季休業中2週間
配当年次	3年次生
履修手続	詳細については別途掲示する。

## 12. 卒業論文について

### 卒業論文の申告事項について

- 1 人文学科の課程を修め学士の学位を得るためには、卒業論文の審査に合格し、その成績をもって所定の単位の一部を満たさなければならない。
- 2 卒業論文提出予定者は、指導教員を通じて、所定の様式により研究テーマ届を10月31日午後 5時15分までに教務担当に届け出ること。  
なお、当日が休日（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。以下同じ。）の場合は、その翌日の午後 5時15分までとし、連休となる場合は、最終休日の翌日の午後 5時15分までとする。
- 3 卒業論文は、所定の手続に従い、1月31日午後 5時15分までに教務担当に提出すること。  
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 4 前期卒業を希望する者は、4月30日午後 5時15分までに指導教員を通じて教務担当に所定の手続を行い、7月31日午後 5時15分までに教務担当に卒業論文を提出すること。  
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 5 卒業論文の成績審査は、論文 1点につき 2人以上の教員がこれにあたり、各々の点数の平均点をもって専門科目10単位の成績とする。  
(注) 論文の形式については、指導教員の指示を受けること。

## 13. 文学部既修得単位の認定内規

**第 1 条** この内規は、文学部規程第 19 条第 1 項の規定に基づき、既修得単位の認定に関し、その取扱いを定める。

**第 2 条** 既修得単位の認定の出願資格は、次のとおりとする。

- 一 大学（外国の大学を含む。）又は短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者又は退学した者
- 二 科目等履修生として単位を修得した者

**第 3 条** 認定できる授業科目の区分及び認定単位は、次のとおりとする。

- 一 教養教育科目のうち外国語科目 8 単位まで
- 二 前号以外の教養教育科目 12 単位まで
- 三 専門教育科目 10 単位まで

**第 4 条** 既修得単位の認定を受けようとする者は、指定する日までに、次の書類を学部長に提出しなければならない。

- 一 既修得単位認定願（本学部所定の様式）
- 二 卒業証明書又は在学期間証明書
- 三 成績証明書及び講義内容を明示できるもの（講義概要等）

**第 5 条** 認定された授業科目は、卒業要件単位数とする。なお、成績評価の表示は「認定」とする。

(附則 省略)

## 14. 岡山大学文学部における外国語科目等に係る単位認定基準

文学部規程第 15 条第 1 項及び第 19 条第 2 項に基づき、文部科学大臣が定める学修の単位認定について、また、文学部規程第 14 条に基づき、大学間交流協定大学等の語学研修により修得した単位の単位認定について、次のとおり申し合せる。

1. 単位認定に関する基準等は、「岡山大学教養教育科目の外国語科目等に係る単位認定基準」（平成 25 年 1 月 22 日教育開発センター運営委員会承認）（以下、「単位認定基準」という。）による。ただし、平成 24 年度以前入学生にあつては「外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項」（平成 16 年 4 月 1 日学長裁定）の別表（以下、「取扱要項別表」という。）による。
2. 単位認定基準別表第 3、取扱要項別表第 8 及び取扱要項別表第 9 のうち南オレゴン大学、アデレード大学またはエクセター大学を研修先とする場合の認定科目及び単位数は『英語コミュニケーション 1』2 単位とする。
3. 申請の方法は、所定の様式に成績証明書等を添えて、7 月又は 2 月の指定する期日までに提出するものとする。なお、語学研修に係るものにあつては帰国後速やかに提出するものとする。
4. 単位の認定は、教授会において行う。
5. この申し合わせは、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。ただし、取扱要項別表第 9 については、平成 23 年度に実施される語学研修より適用する。

## 7. 履修に関する事項

- 1 授業科目は、それぞれの配当年次に履修するものとする。
  - \*配当年次は各年度の「文学部専門教育科目授業時間割」又はシラバスで確認してください。
  - \*特に記載のあるものを除き、配当年次以上の年次であれば履修できます。
- 2 学生は、卒業要件科目・単位数等を考慮のうえ履修すること。なお、卒業要件科目・単位数は入学年度の学生便覧(履修細則)によること。
  - \*文学部では半期15単位以上、通年30単位以上を単位修得の標準としています。ただし、高年次になると演習科目や卒業論文作成のための時間が増えるため、無理のない範囲でしっかり履修してください。
  - \*教養教育科目は1年次、2年次において確実に修得することが望まれます。
  - \*教養教育科目の「情報処理入門(情報機器の操作を含む。)」は1年次に履修すること。必修ではありませんが、全員の履修が望まれます。
  - \*文学部専門教育科目のうち、シラバスの「重複履修の可否」に「可」とあるものは同一名の授業科目を重複して履修することができます。また、これにより修得した単位は卒業資格単位として認められます。
  - \*教養教育科目及び他学部の専門教育科目は一部の科目を除き原則として重複履修ができません。履修の手引や文学部教務担当で個別に確認してください。
  - \*所属専修コースの概説科目は、1～3年次において確実に修得することが望まれます。
  - \*所属専修コースの課題演習については、『専修コース課題演習履修に係る取扱いについて』を参照すること。
- 3 他学部開講の科目(教職関係科目を含む。)を履修する場合は、当該科目の開講される学部において、時間割、シラバス等を確認した後、本学部で履修手続きをとらなければならない。
- 4 教養教育科目の履修は、年間32単位を限度とする。
  - \*履修登録をして「F」となった科目、「人文学の基礎」及び「大学コンソーシアム岡山中で履修した科目(教養教育科目に限る。)」の単位は上記32単位に含みます。入学時のTOEIC-IP試験等により認定された単位は含みません。
  - \*これは、履修上限についてのものです。卒業資格単位とは異なります。例えば、TOEIC-IP試験で認定された単位は履修の上限に含みませんが、卒業資格単位としては認められます。
  - \*なお、平成20年度以降入学生について、教養教育科目の「基礎英語」、「留学生支援ボランティア実習」、「学生支援ボランティア実習」及び補習教育科目は上記32単位に含みません。
- 5 履修手続は、通常の開講科目と集中講義に分けて手続期間が定められており、それぞれについてWeb登録により手続しなければならない。
  - \*各年度の通常科目及び集中講義の履修登録期間は別途掲示します。前期：4月、前期集中：6月、後期(後期集中を含む)：10月です。
  - \*授業の内容が自分が勉強したいものと違っていた、知識が不足していることに気付いた等の理由から、履修登録期間後、定められた期間に手続をすることにより、履修を取り消すことが出来ます。期間については、毎年度掲示します。前期：6月中の1週間、前期集中：講義開始前日までの期間、後期：11月中の1週間です。文学部教務担当で手続を行ってください。
- 6 留学先の大学で修得した単位の取扱いについて
  - 留学先の大学で修得した単位は、60単位を限度とし、教育委員会の議を経て、本学での修得単位として認定することがある。
  - \*認定を希望する場合は、留学開始までに文学部教務担当で必要書類や手続を確認し、帰国後、手続を行ってください。
  - なお、3年次後期から4年次間の留学の場合には、留学先の大学で修得した単位のうち、各専修コースの課題演習科目2単位を修得単位として認定することがある。
- 7 外部検定試験等による単位認定を希望するときは、所定の期間に手続をしなければならない。
  - \*手続期間は7月と2月です。期間は別途掲示します。認定の詳細は、『岡山大学文学部における外国語科目等に係る単位認定基準』を参照すること。

## 8. 「専修コース課題演習」履修に係る取扱いについて

平成16年度以降入学者が履修する「専修コース課題演習」については、卒業論文の執筆に向けての段階的な指導を前提に開講するものであり、原則として3年次後期から4年次後期にわたって、ひとつの専門領域等で継続して履修することとし、履修方法の詳細については各専修コースで定めるものとする。

## 9. 岡山大学文学部成績評価基準

岡山大学文学部規程（平成16年岡大文規程第1号）第10条の規定に基づき、岡山大学文学部成績評価基準を次のように定める。

- 1 成績評価は、出席状況、受講態度、報告・発表状況、レポート、試験など多様な要素を組み合わせで行うものとする。一回の試験又は一回のレポート提出のみで成績評価を行うことはしない。
- 2 試験、レポート等は、成績評価の際に、受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が、適切に反映されるよう課題設定を工夫するものとする。
- 3 各授業科目の成績評価の方法等は、シラバス（講義要覧）に明記するとともに、各授業において、学習目標と関連付けながら説明するものとする。また、優、良、可及び不可（平成20年度以降入学生にあっては、A+、A、B、C及びF）等の区分についても併せて説明する。
- 4 ガイダンス科目及び外国語科目のように、性格を同じくする授業科目を複数コマ開講する場合の成績評価の方法等は、担当教員による評価の差が生じないように、相互に調整し、可能な限り統一するものとする。また、1授業科目を複数の教員で担当する場合も同様とする。
- 5 卒業論文の評価は、次の項目等について、総合的に行うものとする。
  - ① 論文としての形式を満たしているか。
  - ② 必要な調査や実験、または文献の収集を行い、かつ適切な分析が行われているか。
  - ③ 論文のテーマ、目的、方法が明確であるか。また、論旨が明晰であり、言語表現が適切であるか。
  - ④ 口述試験において質問に適切に答えられたか。なお、論文の形式等については、3年次後期のもしくは4年次前期の課題演習において、担当の教員が指示するものとする。
- 6 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、適切に対応するものとする。



## 10. 岡山大学の試験等における受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。(不明な点については授業担当教員へ確認してください。)

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。  
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板(物入れ)には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて出すと当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条(大学院学則第49条)により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目(通年で開講する授業科目を含む。)の単位は認定しない。

## 11. 就業体験実習(インターンシップ)の履修について

### 就業体験実習の概要

1. 趣旨・目的  
本実習は、在学中に一定期間、学外の一般事業所において就業体験を行うことにより社会的な知見を身につけるとともに、自らに適したキャリアを開発することを目的とする。
2. 対象学生  
原則として3年次生とする。
3. 実施時期等  
実習の実施時期は、原則として夏季休業中の2週間とする。  
実習の実施にあたって、学生は受入機関からの報酬等は受けないものとする。
4. 実習内容等  
実習内容は、原則として、受入機関の予定しているものを文学部学生生活委員会が確認し、承認するものとする。
5. 単位認定等  
文学部学生生活委員会は、学生の提出する「実習結果報告書」、受入機関の「インターンシップ実施評価報告書」及び指導教員の「実習指導意見書」に基づき、単位の認定を行う。
6. 事故対策  
実習中の事故に対処するため、学生は学生教育災害傷害保険及び賠償責任保険等に加入するものとする。
7. 守秘義務  
実習中に学生が知り得た受入機関に関する情報については、守秘義務を負うものとする。
8. 運営機関  
本実習の運営は、文学部学生生活委員会が行う。

授業科目区分	専門科目
授業科目	就業体験実習(インターンシップ)
単位	2単位
実施時期	原則として夏季休業中2週間
配当年次	3年次生
履修手続	詳細については別途掲示する。

## 12. 卒業論文について

### 卒業論文の申告事項について

- 1 人文学科の課程を修め学士の学位を得るためには、卒業論文の審査に合格し、その成績をもって所定の単位の一部を満たさなければならない。
- 2 卒業論文提出予定者は、指導教員を通じて、所定の様式により研究テーマ届を10月31日午後 5時15分までに教務担当に届け出ること。  
なお、当日が休日（土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう。以下同じ。）の場合は、その翌日の午後 5時15分までとし、連休となる場合は、最終休日の翌日の午後 5時15分までとする。
- 3 卒業論文は、所定の手続に従い、1月31日午後 5時15分までに教務担当に提出すること。  
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 4 前期卒業を希望する者は、4月30日午後 5時15分までに指導教員を通じて教務担当に所定の手続を行い、7月31日午後 5時15分までに教務担当に卒業論文を提出すること。  
なお、当日が休日の場合は、第 2項の規定を準用する。
- 5 卒業論文の成績審査は、論文 1点につき 2人以上の教員がこれにあたり、各々の点数の平均点をもって専門科目10単位の成績とする。  
(注) 論文の形式については、指導教員の指示を受けること。

## 13. 文学部既修得単位の認定内規

**第 1 条** この内規は、文学部規程第 19 条第 1 項の規定に基づき、既修得単位の認定に関し、その取扱いを定める。

**第 2 条** 既修得単位の認定の出願資格は、次のとおりとする。

- 一 大学（外国の大学を含む。）又は短期大学（外国の短期大学を含む。）を卒業した者又は退学した者
- 二 科目等履修生として単位を修得した者

**第 3 条** 認定できる授業科目の区分及び認定単位は、次のとおりとする。

- 一 教養教育科目のうち外国語科目 8 単位まで
- 二 前号以外の教養教育科目 12 単位まで
- 三 専門教育科目 10 単位まで

**第 4 条** 既修得単位の認定を受けようとする者は、指定する日までに、次の書類を学部長に提出しなければならない。

- 一 既修得単位認定願（本学部所定の様式）
- 二 卒業証明書又は在学期間証明書
- 三 成績証明書及び講義内容を明示できるもの（講義概要等）

**第 5 条** 認定された授業科目は、卒業要件単位数とする。なお、成績評価の表示は「認定」とする。

(附則 省略)

## 14. 岡山大学文学部における外国語科目等に係る単位認定基準

文学部規程第 15 条第 1 項及び第 19 条第 2 項に基づき、文部科学大臣が定める学修の単位認定について、また、文学部規程第 14 条に基づき、大学間交流協定大学等の語学研修により修得した単位の単位認定について、次のとおり申し合せる。

1. 単位認定に関する基準等は、「岡山大学教養教育科目の外国語科目等に係る単位認定基準」（平成 25 年 1 月 22 日教育開発センター運営委員会承認）（以下、「単位認定基準」という。）による。ただし、平成 24 年度以前入学生にあつては「外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項」（平成 16 年 4 月 1 日学長裁定）の別表（以下、「取扱要項別表」という。）による。
2. 単位認定基準別表第 3、取扱要項別表第 8 及び取扱要項別表第 9 のうち南オレゴン大学、アデレード大学またはエクセター大学を研修先とする場合の認定科目及び単位数は『英語コミュニケーション 1』2 単位とする。
3. 申請の方法は、所定の様式に成績証明書等を添えて、7 月又は 2 月の指定する期日までに提出するものとする。なお、語学研修に係るものにあつては帰国後速やかに提出するものとする。
4. 単位の認定は、教授会において行う。
5. この申し合わせは、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。ただし、取扱要項別表第 9 については、平成 23 年度に実施される語学研修より適用する。